ステータス

インターフェース 2
　　イーサネットの設定（内部ネットワーク用インターフェース） 2
　　無線 LAN 設定 2
イベント 3
　　オプション 3
　　リレーの設定 4
　　イベント 5
送信／受信 6
クライアント 9
隣接アクセスポイント 11
Managed AP DHCP 13

インターフェース

本製品のインターフェースに関する情報を表示します。「更新」ボタンをクリックすると、最新の情報に更新します。

イーサネットの設定（内部ネットワーク用インターフェース）

内部ネットワーク用インターフェースの現在状態を表示します。「編集」リンクをクリックすると、「詳細設定」/「イーサネット設定」画面に移動します。

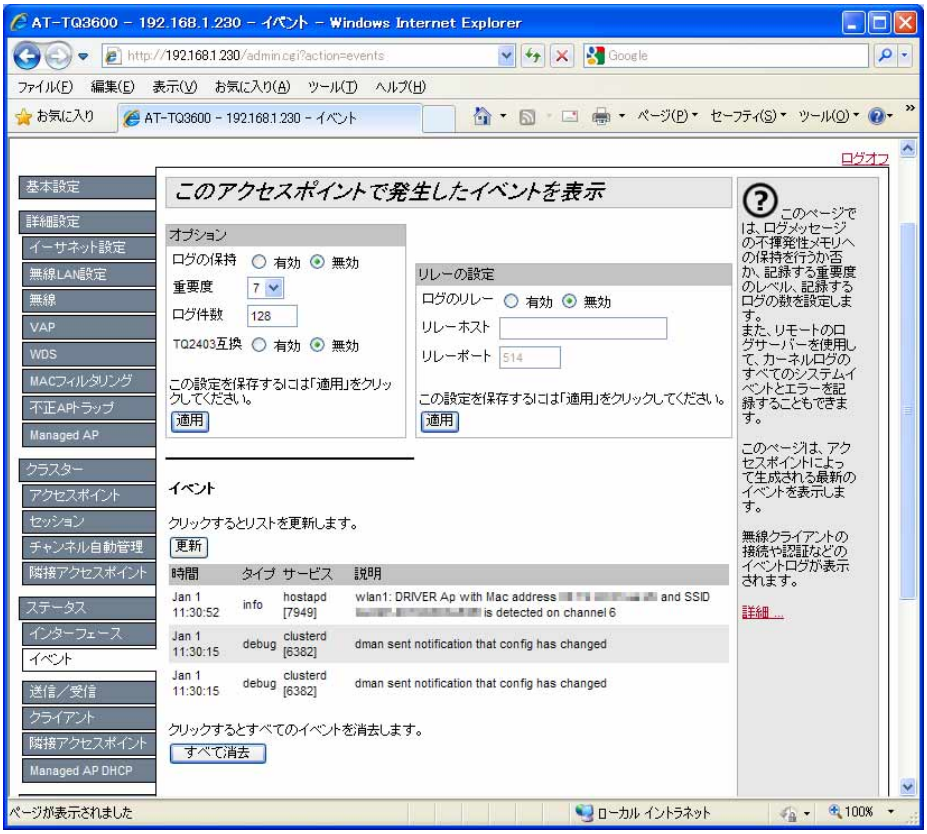
無線 LAN 設定

無線 LAN インターフェースの現在状態を表示します。「編集」リンクをクリックすると、「詳細設定」/「無線 LAN 設定」画面に移動します。

イベント

本製品に発生したイベントをログとして記録します。

✎ イベントの日時を記録するために、「オプション設定」の「NTP」画面で本製品が正しい日時を保持するよう設定してください。



オプション

ログを不揮発性メモリーに保存し、再起動後にログの内容を確認することができます。例えば、本製品が予期しない再起動を起こす場合、この機能によりログを確認することができます。

1. 「ログの保持」を「有効」に設定し、「重要度」「ログ件数」を必要に応じて設定してください。
2. 「適用」ボタンをクリックしてください。

✎ 「適用」ボタンをクリックすると、変更した項目によっては、無線クライアントが一時的に切断されることがあります。アクセスポイントの設定の変更は、無線トラフィックが少ないときに行うことをおすすめします。

✎ 「ログの保持」は、問題を解決する際にのみ有効にしてください。「ログの保持」を有効にしたまま運用しないでください。

項目名	説明
ログの保持	ログを不揮発性メモリー（フラッシュメモリー）に保存し、再起動時に保持するか否か。 保持する場合は「有効」、しない場合は「無効」を選択します。デフォルトは「無効」です。
重要度	記録するログの最低レベルを 0（重大な障害）～7（詳細な情報）から選択します。例えば、重要度を 2 に設定すると 2 よりも重要なイベント（0～2）が記録されます。デフォルトは「7」です。
ログ件数	保存するログの数を 128 までの数値で設定します。デフォルトは「128」です。
TQ2403 互換	ファシリティーを AT-TQ2403 互換にするか否か。AT-TQ2403 互換にする場合は「有効」、しない場合は「無効」を選択します。デフォルトは「無効」です。

表 1: オプション

✎ ファシリティーは、どの部分がログを生成したかを示します（KERN、USER、DAEMON など）。

重要度		説明
0	Emergency	システムが使用できない状態
1	Alert	直ちに対応しなければならない状態
2	Critical	深刻な状態
3	Error	エラーが発生している状態
4	Warning	前兆が見られる状態
5	Notice	正常だが注意が必要な状態
6	Informational	情報メッセージ
7	Debug	デバッグレベルのメッセージ

表 2: 重要度

リレーの設定

「リレーの設定」を行うと、この「イベント」画面に表示されるログだけでなく、システムイベントやカーネルメッセージ（エラー状態、フレーム欠落など）も Syslog サーバーにリレー（中継）されます。Syslog サーバーの利用は、次のような利点があります。

- 複数のアクセスポイントからのログの集約
- 長期のログの保存

設定手順は次のとおりです。

1. 「ログのリレー」を「有効」に設定し、「リレーホスト」に Syslog サーバーの IP アドレスを入力してください。
2. 「適用」ボタンをクリックしてください。

✎ 「適用」ボタンをクリックすると、変更した項目によっては、無線クライアントが一時的に切断されることがあ

ります。アクセスポイントの設定の変更は、無線トラフィックが少ないときに行うことをおすすめします。

✎ あらかじめ Syslog サーバーを正しく設定しておく必要があります。

項目名	説明
ログのリレー	ログを Syslog サーバーにリレー（中継）するか否か。 リレーする場合は「有効」、しない場合は「無効」を選択します。 デフォルトは「無効」です。
リレーホスト	ログをリレーする Syslog サーバーの IP アドレスまたは 256 文字までの FQDN を入力します。 （例）10.10.1.200、syslog.yourdomain.co.jp
リレーポート	ログをリレーする Syslog サーバーのポート番号を入力します。 デフォルトは「514」です。

表 3: リレーの設定

イベント

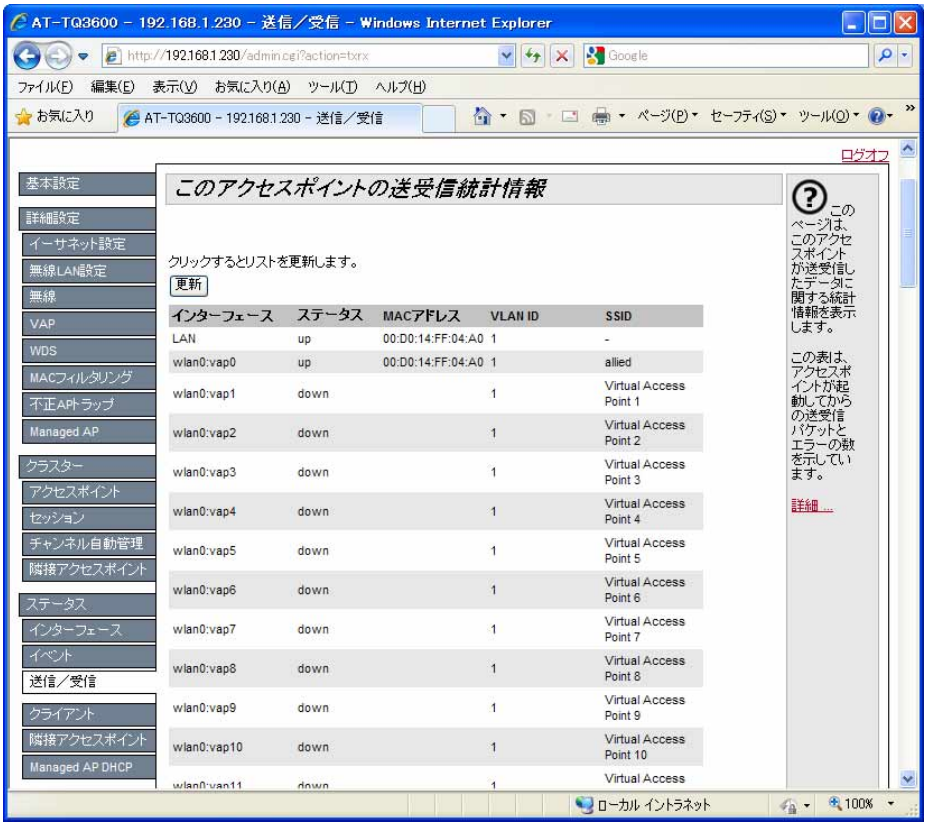
「更新」ボタンをクリックすると、最新の情報に更新します。「すべて消去」ボタンをクリックすると、現在記録されているすべてのログを消去します。

項目名	説明
時間	イベントが発生した時刻または稼働時間を表示します。
タイプ	ログメッセージのタイプを表示します。重要度に一致します。
サービス	ログを出力したモジュール名を表示します。
説明	本製品に発生したイベント情報を表示します。

表 4: イベント

送信／受信

送信および受信に関するインターフェースごとの統計情報を表示します。



インターフェース	ステータス	MACアドレス	VLAN ID	SSID
LAN	up	00:D0:14:FF:04:A0	1	-
wlan0:vap0	up	00:D0:14:FF:04:A0	1	allied
wlan0:vap1	down		1	Virtual Access Point 1
wlan0:vap2	down		1	Virtual Access Point 2
wlan0:vap3	down		1	Virtual Access Point 3
wlan0:vap4	down		1	Virtual Access Point 4
wlan0:vap5	down		1	Virtual Access Point 5
wlan0:vap6	down		1	Virtual Access Point 6
wlan0:vap7	down		1	Virtual Access Point 7
wlan0:vap8	down		1	Virtual Access Point 8
wlan0:vap9	down		1	Virtual Access Point 9
wlan0:vap10	down		1	Virtual Access Point 10
wlan0:vap11	down		1	Virtual Access

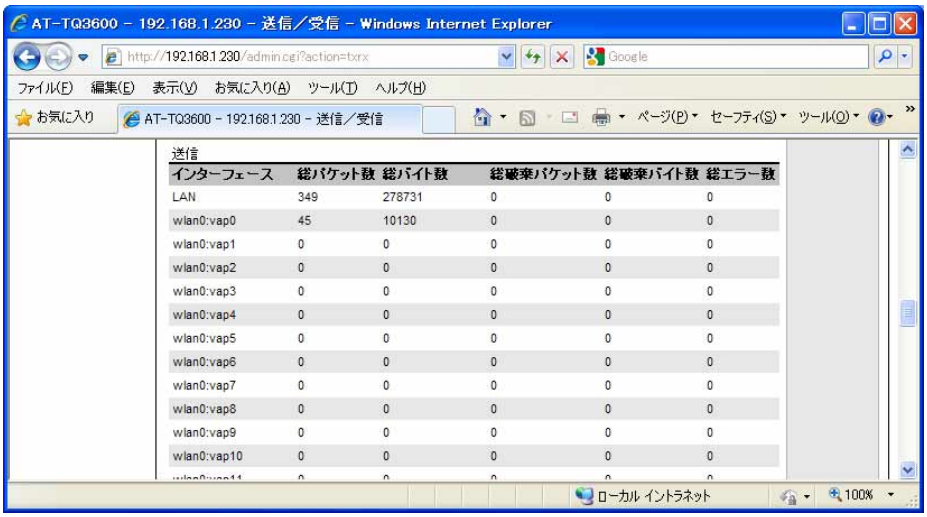
項目名	説明
インターフェース	イーサネット（LAN）、VAP（バーチャルアクセスポイント）、WDS のインターフェース名を表示します。VAP のインターフェース名は、wlan0/1（無線 1/2）と vap0～15（VAP 番号）をコロンで連結したものです。WDS のインターフェース名は、wlan0 と wds0～3 を連結したものです。wds0～3 の番号は、「詳細設定」/「WDS」画面の一番上を 0 として下に向かって数えます。
ステータス	該当のインターフェースのステータス（up または down）を表示します。
MAC アドレス	該当のインターフェースが持つ MAC アドレスを表示します。MAC アドレスは、VAP ごとに、また無線 1/2 ごとに異なります。
VLAN ID	該当のインターフェースの VLAN ID を表示します。
SSID	該当のインターフェースのネットワーク名（SSID）を表示します。

表 5: インターフェースの状態

✎ WDS のインターフェース名は、使用する無線「1」「2」にかかわらず常に「wlan0」と表示されます。

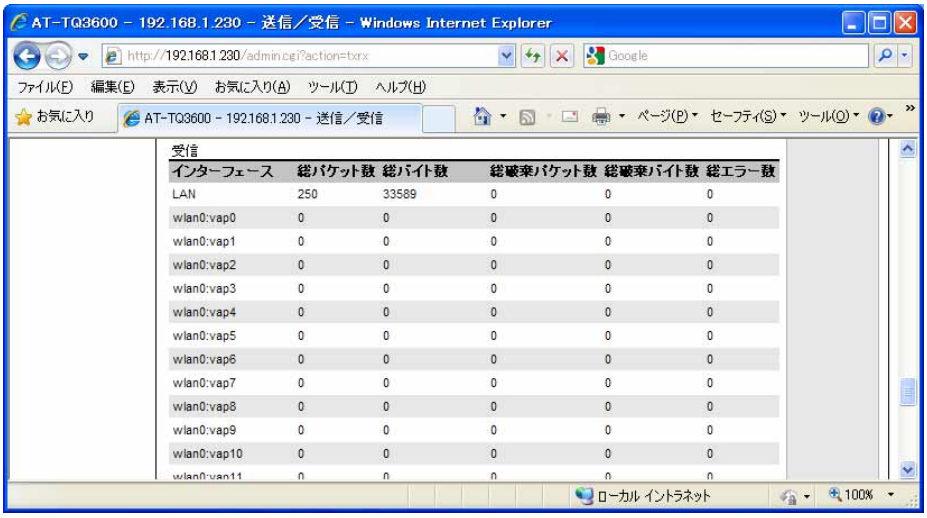
✎ WDS 接続で「暗号化」が「無し」の場合、WDS 接続の設定を削除しても（「詳細設定」/「WDS」画面の「リモートアドレス」を削除しても）、「ステータス」/送信／受信画面の「MAC アドレス」が表示されたままとなります。本製品を再起動すると、これは表示されなくなります。

✎ イーサネットポートでパケットを受信した後に統計情報を更新すると、「LAN」の送信/受信の総パケット/バイト数とともに送信の総エラー数もカウントアップします。



送信

インターフェース	総パケット数	総バイト数	総破棄パケット数	総破棄バイト数	総エラー数
LAN	349	278731	0	0	0
wlan0:vap0	45	10130	0	0	0
wlan0:vap1	0	0	0	0	0
wlan0:vap2	0	0	0	0	0
wlan0:vap3	0	0	0	0	0
wlan0:vap4	0	0	0	0	0
wlan0:vap5	0	0	0	0	0
wlan0:vap6	0	0	0	0	0
wlan0:vap7	0	0	0	0	0
wlan0:vap8	0	0	0	0	0
wlan0:vap9	0	0	0	0	0
wlan0:vap10	0	0	0	0	0



受信

インターフェース	総パケット数	総バイト数	総破棄パケット数	総破棄バイト数	総エラー数
LAN	250	33589	0	0	0
wlan0:vap0	0	0	0	0	0
wlan0:vap1	0	0	0	0	0
wlan0:vap2	0	0	0	0	0
wlan0:vap3	0	0	0	0	0
wlan0:vap4	0	0	0	0	0
wlan0:vap5	0	0	0	0	0
wlan0:vap6	0	0	0	0	0
wlan0:vap7	0	0	0	0	0
wlan0:vap8	0	0	0	0	0
wlan0:vap9	0	0	0	0	0
wlan0:vap10	0	0	0	0	0

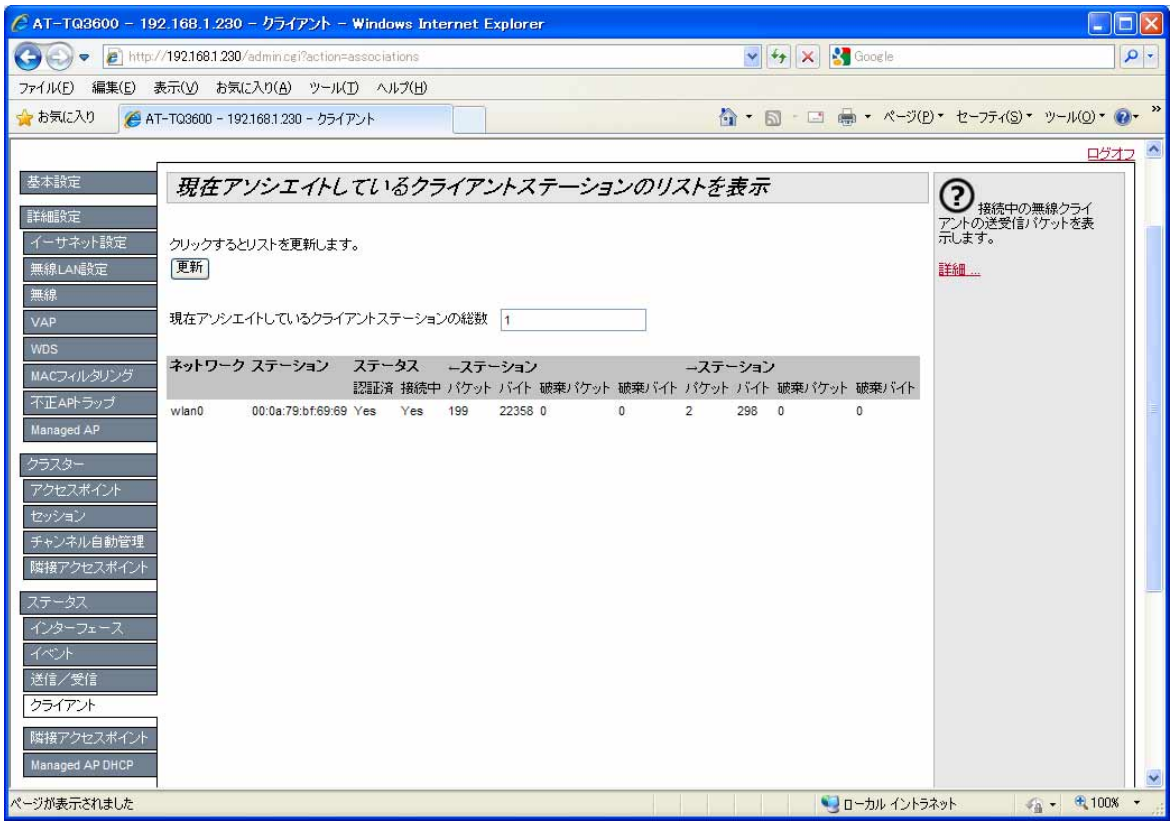
項目名	説明
総パケット数	送信/受信した総パケット数を表示します。
総バイト数	送信/受信した総バイト数を表示します。ただし、送信における総バイト数は、FCS とパディング（フレームサイズが最小サイズに満たない場合に付加）が含まれません。

総破棄パケット数	送信/受信で破棄された総パケット数を表示します。
総破棄バイト数	送信/受信で破棄された総バイト数を表示します。
総エラー数	送信/受信におけるエラー数を表示します。

表 6: 送信および受信の統計情報

クライアント

「現在アソシエイトしているクライアントステーションの総数」と接続中の無線クライアントごとの送受信の統計情報が表示されます。



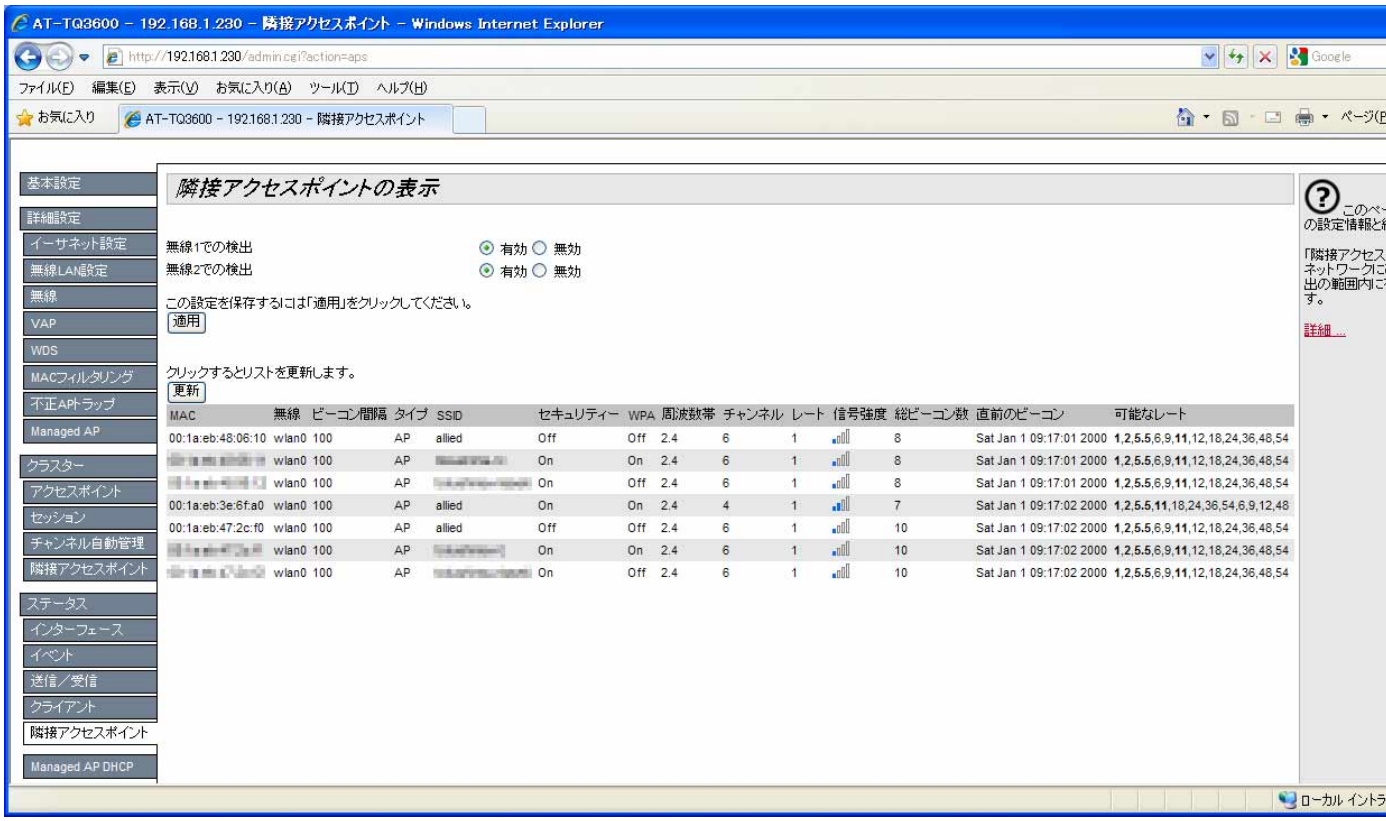
項目名	説明
ネットワーク	無線クライアントが接続しているネットワーク名を表示します。ネットワーク名は、wlan0/1（無線 1/2）と vap1～15 を連結したものです。ただし、単に wlan0 または wlan1 のように表示されている場合は、wlan0vap0 または wlan1vap0 を意味します。 （例）wlan0、wlan0vap2
ステーション	接続している無線クライアントの MAC アドレスを表示します。
ステータス	IEEE 802.11 における、無線クライアントの認証済（Authentication）と接続中（Association）の状態（Yes/No）を表示します。これは、無線クライアントが使用しているセキュリティーの状態を表しているわけではありませんのでご注意ください。「認証済」「接続中」に Yes と表示されている場合は、IEEE 802.11 の Authentication と Association シーケンスが完了していることのみを意味します。例えば、IEEE 802.1X または WPA ではこれらによる認証の成立の如何にかかわらず Yes が表示され、必ずしも無線クライアントがデータを送受信できる状態を示しているとは限りません。しかしながら、セキュリティーなしまたはスタティック WEP では、Yes は無線クライアントによるデータの送受信が可能であることを意味します。
←ステーション	本製品が無線クライアントから受信したデータのパケット数、バイト数、破棄パケット数、破棄バイト数を表示します。
→ステーション	本製品から無線クライアントに送信したデータのパケット数、バイト数、破棄パケット数、破棄バイト数を表示します。

表 7:

隣接アクセスポイント

本製品の周辺に存在するアクセスポイントを検出し、詳細な情報を表示します。ご購入時には、この機能は無効となっています。有効にするには、次の手順を実行してください。

1. 「無線 1 での検出」または「無線 2 での検出」で「有効」を選択してください。
2. 「適用」ボタンをクリックしてください。



✎ 上記画面は、「無線 1 での検出」「無線 2 での検出」を「有効」にした状態です。デフォルトは両方とも「無効」です。

✎ 「詳細設定」/「不正 AP トラップ」に関連情報があります。

項目名	説明
無線 1 での検出	無線 1（2.4GHz 帯）で隣接するアクセスポイントの検出を行うか否か。検出する場合は「有効」、しない場合は「無効」を選択します。デフォルトは「無効」です。これは、「詳細設定」の「不正 AP トラップ」画面の「無線 1 での検出」と連動します。

無線 2 での検出	無線 2（5GHz 帯）で隣接するアクセスポイントの検出を行うか否か。検出する場合は「有効」、しない場合は「無効」を選択します。デフォルトは「無効」です。これは、「詳細設定」の「不正 AP トラップ」画面の「無線 2 での検出」と連動します。

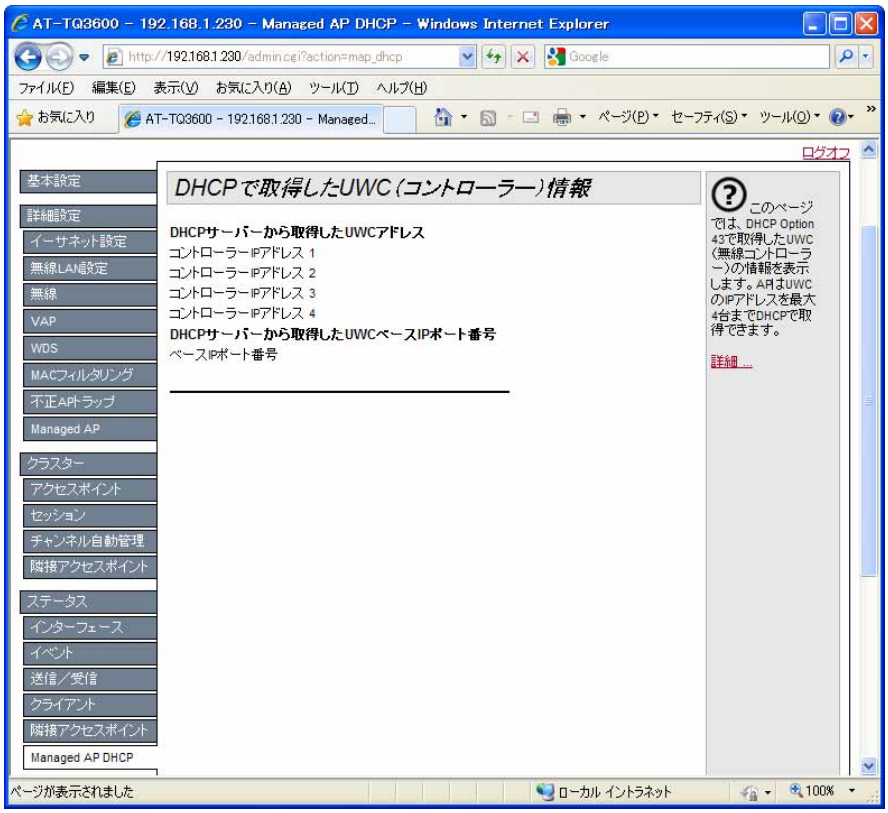
表 8:

項目名	説明
MAC	検出したアクセスポイントの MAC アドレスを表示します。
無線	無線インターフェースを wlan0（無線 1）または wlan1（無線 2）で表示します。
ビーコン間隔	ビーコン間隔を表示します。
タイプ	無線のモード「AP」または「Adhoc」を表示します。
SSID	ネットワーク名（SSID）を表示します。
セキュリティー	無線が暗号化されているか否かを表示します。
WPA	無線が WPA 暗号化されているか否かを表示します。
周波数帯	無線の周波数帯を GHz で表示します。「2.4」は IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n またはそれらの組み合わせ、「5」は IEEE 802.11a、IEEE 802.11n またはそれらの組み合わせを意味します。
チャンネル	無線のチャンネルを表示します。
レート	ビーコンの送信に使用される通信レート（Mbps）を表示します。
信号強度	受信した信号の強さを 4 段階の棒グラフのアイコンで表示します。アイコンをポイントするとデシベル（dBm）を表示します。
総ビーコン数	このアクセスポイントの検出後に受信したビーコンの総数を表示します。
直前のビーコン	最後にビーコンを受信した日時を表示します。
可能なレート	サポートしている無線の通信レートを表示します。太字で表示される数値は、ベーシックレートです。

表 9:

Managed AP DHCP

DHCP オプション 43 で取得した無線コントローラー（AT-UWC）に関する次の情報を表示します。



項目名	説明
コントローラー IP アドレス 1～4	DHCP サーバーから取得した無線コントローラーの IP アドレスです。
ベース IP ポート番号	DHCP サーバーから取得したベース IP ポート番号です。

表 10:

✎ 「詳細設定」/「Managed AP」に関連情報があります。